

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた町、住み慣れた地域、高齢であっても安らぎと喜びのある日々をその人らしく過ごして頂きたい。という地域で暮らす大切さを大事にした理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内、玄関、詰所、台所等に理念を掲示して、常に理念を意識しながらケアに努めている。		地域で暮らすことを大切にしたい理念なので積極的に地域との関わりを作るように心掛けている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	町内会の行事に参加したりする事で少しずつではあるが理解してきてもらっている。家族会でも地域との関わりの大げささについて話し合っている。		益々、地域に理解してもらえるようにこれからも機会を作り働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方と気軽に挨拶を交わしている。立ち寄ってもらえるような関係には至っていない。		これからは気軽に立ち寄ってもらえるように、そよかぜで企画した行事などを行い参加してもらえよう努力する。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の行事(手作り市、ジンギスカン、クリーンナップ等)に参加し、交流している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町の介護の集いに参加し、管理者は認知症を支える家族の会の研修などにも話題提供者として参加している。		町内会の行事、手作り市への参加を現在企画準備中である。来年からの参加を目標としている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全スタッフで会議をして自己評価を行った。昨年からの改善事項として、浴室の手摺を増設、玄関周りを装飾で明るくした、そよかせ便りを個人宛にし家族への一言を付け加えた、協力医療機関の栄養士さんからメニューについて指導を受けた。昨年、運営推進会議に利用者本人も参加が望ましいという指摘があったが、運営推進会議で話し合った結果、委員、家族より難しいと意見有り、実施はしていない。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回、利用者の介護状況、行事報告、外部評価の改善事項などを報告し、地域との関わり方や協力体制などについて意見を頂き実施に繋げている。運営推進会議を3ヶ月に1回程度開催してきたが、10月からは2ヶ月に1回行うことに決定した。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	解らないことがある場合は随時連絡を取り合っている。その他、各種申請、手続き、介護の集い等で交流している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在、該当者はいないが必要時には対応できる知識は有している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加後、施設内でも勉強会を行い虐待がないように注意しながらケアにあたっている。会議でもケアの方法を話し合い虐待を未然に防げるような工夫をしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約については施設長、管理者が行い十分な説明をして行っている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	機会は作っていないが、利用者からは日々の生活への不満、苦情等があれば個別に話し合い解決できるよう対応出来ている。早急に解決出来ない不満について、職員会議、ケア会議の議題として全スタッフで話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月「そよかぜ」便りを発行し、生活状況、レク報告、家族へのお知らせを掲載している。金銭出納帳も家族に送付しお金に出入りを報告している。健康状態については異常があった場合には随時連絡し、面会時にも伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に苦情箱を設置し、家族会や運営推進会議でも意見や苦情がないか確認している。意見や苦情があった場合には話し合いを設け、解決している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>オーナーの参加は少ないが、施設長、管理者は職員会議で職員の意見や提案を聞き全て反映されている訳ではないが可能なものは反映してくれている。今後オーナーも職員会議などに参加し職員の意見を聞く機会を増やしてくれる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の健康状態やレク等で人員を手厚くしたり、勤務時間の調整は随時行っており、利用者に影響がないように配慮出来ている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動は少ないが、あった場合には周りの職員でフォローし馴染みの関係を築けるように取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設長、管理者は出来るだけ外部の研修会に参加できるように計画を立て、全スタッフが順番で参加出来るように配慮している。研修参加者は職員会議で研修報告を行い不参加スタッフが勉強できるようにしている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同町内にグループホームはなく定期的な交流は少ないが数年前に近隣のグループホームと相互訪問実習を行った。また、機会があれば実施したい。		近隣町村のグループホームと定期的に意見交換などが出来る体制、組織作りが必要だと思う。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者はスタッフの話を書く機会を作り食事会などの開催を企画してくれている。運営者との交流は少ない。		運営者とスタッフの交流の場や話し合いの場を多くしていきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	現状では勤務実績を報告しているのみである。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に必ず面談をして、入居に対して不安がないように努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に必ず面談を行い、見学、話し合いの場を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	過去に、デイケアを利用していた方もいました。現在は他のサービスを利用している方はいませんが、家族、本人からの要望があれば都度対応していける。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ほとんどの利用者は他の医療機関からまっすぐ入所というパターンが多いが、自宅からの入所となる方には事前にホームを見学してもらうなど対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の会話で昔の町の話や昔ながらの調理方法、歌を教えてもらうなど一緒に生活を楽しんでいる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、家族会等で家族からの悩みなどをスタッフが聞き、共に考え利用者介護に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの家族関係を把握し本人、家族に負担が少ないように努めている。しかし、よりよい関係が作れるようにホーム側から働きかける場合があっても家族側から受け入れて頂けない状況もある。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所以前から参加していた趣味の会への参加を継続して頂き、先方の方にはボランティアでホームにきてもらうなど関係継続を支援している。知人の面会などにはまた来て頂けるようにスタッフから一声掛けるように心掛けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	共有スペース、各居室で仲の良い利用者同士が楽しく過ごせるようにスタッフが配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所後も本人やそのご家族から手紙や年賀状を頂いている。その他、スタッフは勤務時間外にも面会に行くなど関係継続を大事にしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一人での外出希望(散歩、買い物)があった利用者には、家族との話し合いを持ち本人の希望を実現できた。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>センター方式を利用し、書ける範囲で直接家族に書いて頂き、本人からも話を聞くなどして把握出来ている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>入所時には24時間シートを利用し把握する。その後は記録と申し送りで徹底している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望を大切に、家族からの意向もあれば本人と話し合い、ケアに反映している。ケアマネの監督の下、当ホームでは職員が各担当者を持ちアセスメント、ケアプランを作成している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>見直し時期に関係なく必ず月1回担当者、ケアマネでケアについて見直しをして変化に対応している。月に1回職員会議の他にケア会議を行い、全利用者の状態把握が出来ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録にケアの実施、結果を残し見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	各種申請、手続き事務的な事は代行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的には月1回ボランティアさんにオルガンの演奏で入って頂いており、その他年に数回、他のボランティアさんにも来て頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	以前はあったが現在は該当なし。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	事例が今のところない。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族に納得してもらい、かかりつけ医を決めている。他科については利用者に合わせて往診を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協会病院精神科医は認知症に詳しいので相談にものって頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診を受けている医院の看護師さんに相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合には毎日面会し、看護師さんと情報交換するよう努め、退院時には病院関係者とホーム側で話し合い退院後の生活に支障がないようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	一度看取りを行った時には、医師と家族と何度も話し合った。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医と事業所との連携はとれている。急変時や夜間も対応して頂いた。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	必ず情報交換に努め話し合いの場をもっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	声掛け方法は各個人に合わせるよう配慮している。記録についても充分注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自ら発言されない方にはスタッフから問いかけ、利用者がわかりやすい言葉で話すよう心掛けている。決定は本人の意思を大切にしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者からの訴えがあった場合にはすぐに対応している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容院は馴染みの店を利用してもらっている。外出時やレクなどの時には女性スタッフが化粧をしてあげたり衣装選びにも配慮している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日ではないが、食事作りにも参加して頂き、片付けは毎食後利用者とスタッフで行っている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>個人で管理し飲酒されている利用者もあり、その他の利用者にも行事等で飲酒できるように場を設けている。利用者の好みに応じた対応ができています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排尿、排便のチェックを行い、時間、回数を記録し排泄パターンの把握に努めている。便秘の方には下剤の調整も行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴日、時間はホーム側で決めているが、希望があった場合には対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持 ちよく休息したり眠れるよう支 援している。	馴染みの寝具を利用して頂いたり、眠れない利用者にはホットミルクを提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる。	本人希望のレクや遊びを行って頂 き、ホームで使う雑巾なども利 用者が作ってくれたり力が発揮 できる場となっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	個人で管理できる方はしており、 ホームで管理している方にも買 い物に出掛けた際には支払いを してもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一 人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援している。	日常の散歩の他に月に1,2度レ クで外食やドライブなどに外出 している。個別でも喫茶店や美 術館見学に外出する機会を設 けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族ととも に出かけられる機会をつくり、 支援している。	月に1回程度、近隣の市町村へ ドライブや見学などに行けてい る。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りが できるように支援している。	希望時には電話の貸し出し、自 分でダイヤルできない方には スタッフが代行している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	面会時間は決めずに希望の場 所で談話して頂き、面会者 にはお茶やコーヒーを出して くつろいでもらえるように心 掛けています。		
(4) 安心と安全を支える支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、状況が悪いときに4点柵を使用している利用者があるが、事前に家族に説明し了解を得ている。外部の研修に積極的に参加し、参加者は職員会議で研修報告を行い全スタッフが勉強できる体制をとっている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の防犯以外は施錠はしていない。一人でそと外出してしまう利用者があるためホームでは階段ののれんに鈴を付けて利用者の所在が把握できるように工夫している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは常に利用者の所在がわかるようにスタッフ間で情報を交換しながらケアしている。居室で過ごす時間が長い方にはさりげなく訪問し声掛け確認を行っている。しかし、スタッフの見落としがあり一人で外に出てしまう利用者さんもいた。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	台所の刃物は夜間のみ詰所で保管しているが、個人で刃物を管理されている利用者も数名いる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々にアセスメントを行い、事前に事故を防げている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に消防で普通救命講習を受講している。今年も全スタッフが受講した。急変時の連絡体制も出来ている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回、消防立会いのもと避難訓練を実施し、運営推進会議でも地域の人に協力して頂けるようお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	危険があることは面会時などに家族に随時説明し、家族にも理解を頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを行い、顔色や表情などにも気づけるようにしている。病院受診、往診結果を記録に記入、確実に申し送りすることで全スタッフが利用者のことを把握出来ている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に服用している薬の処方箋をファイルにして、いつでも確認できるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取を多くしたり、排便の状態を把握して食事には乳製品、野菜を多く取り入れている。しかし、高齢もあり運動はしたがない利用者もいる。		体を動かせるような楽しい事を企画して、運動での便秘予防も行っていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に声掛けしているが嫌がる利用者には無理強いはしていない。個人に合わせた対応をとっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、食事は記録に残し状態が把握できるようにしている。スタッフは水分の大切さを利用者へ伝え出来るだけ水分摂取してもらえるように努力している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各マニュアルがあり実行している。特に外出後のうがい、手洗いは徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日、まな板は消毒し、使用後も消毒スプレーを使用している。まな板も用途に合わせて使い分けている。使用する食材の賞味期限の点検や野菜類には納品日を記入し、安全な食材を使用できている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前にベンチを置き、近隣の方が休めるようにしている。玄関周辺を装飾し明るい雰囲気を作るように努力した。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>年中行事や季節に合わせて装飾し、利用者に季節を感じてもらえている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>新たに廊下に椅子を設置し休憩したり会話の場となるように工夫した。テレビ前のソファや食卓の椅子で各自過せている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所時から馴染みの家具や物を使用して頂き、家族の写真や、装飾などで本人なりの居室となっている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各居室、ホールに温度、湿度系を設置して必要に応じて換気できており、入浴時には脱衣場と浴室の温度差がないように調節している。トイレは常にスタッフが清掃、点検し汚物の処理を行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>今まで課題であった浴槽にも手摺を増設した。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各所に表札を設置しているが、どうしても居室が解らなくなってしまう利用者には個別に本人に合わせた表札を作るなど対応している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りは立地上困難であるため、玄関前のベンチで休んだり日向ぼっこをする程度である。その代りホールには植物や金魚を飼育するなど工夫している。</p>		

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない	ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	数日に1回程度ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	ほぼ全ての利用者
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない	ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない	家族の2/3くらい
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	たまに

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	ほぼ全ての職員が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者の1/3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	家族等の2/3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・食事がおいしい ・商店街なので賑やかな雰囲気 ・1ユニットで家庭的 ・本人の思いを大切にしている